

母校の大病院で無給医として働き始めた頃、先任教授の座右の銘が「惻隱」だと聞いた。医者的心得を説かれたのだろう。辞書には「あわれみ」とあった。

あれから60年、下町の開業医として生き、惻隱の意味も少しはわかってきたつもりだが最近に加齢性の不具合で迷惑ばかりかけている。少し前には喫茶店でカップを盆ごとひっくり返し、笑顔の女性店長がさりげなく救ってくれた。これが惻隱の情だと感激した。

この惻隱をもっと知ろうとまず浮かんだのが論語だったが後日、惻隱は『孟子』に出てくると知って顔が赤くなった。孔孟の勘違い。そのとき書棚から引き出したのがこの本だ。

論語と同じ学而篇から堯曰篇まで20篇。文頭に引用があり、愉快な大人の交友録が続く構成だ。「孔子の言葉をきつかけに現代の世相人心を慨嘆し合ったり」、解釈をめぐって妙な論争をしたりだが、話は論語にしっかりからんでいく。「朋アリ遠方ヨリ来ル、亦楽シカラズ乎」など漢文で習った記憶もよみがえる。

巻末の高島俊男さんの解説にも教えられた。

論語は「孔子やその弟子の発言を、無秩序に雑然とならべた」「順不同の格言集」で、口伝がいつしか文字になり、孔子も理想化されていったのだろうとある。そこには仁や礼、政や善などの珠玉の言葉が並ぶ。時代を経て孟子は惻隱を語り……。いや、知らないことは正直に知らないと言おう、これも論語の言葉だった。

本家の中国が今や論語をないがしろにしているのではないか。世界が人間の真善美という究極を目指す心を持ってほしい。恥ずかしながら「論語知らずの論語読まず」だった私だが、今からでも学んでみようかと思う。学び習うことはいつでも喜び。孔子先生は見捨てない。

ピプリオエッセー

いくつになっても知るは喜び



投稿はペンネーム可。650字程度で住所、氏名、年齢と電話番号を明記し、〒5556-8661 産経新聞「ピプリオエッセー」事務局まで。メールは**bihio@sankei.co.jp**。題材となる本は流通している書籍に限り、絵本、漫画も含みます。採用のみ連絡、原稿は返却しません。二重投稿はお断りします。